



三木の祭り屋台紹介リレー

その4

市では、市制施行70周年記念事業として、10月26日に「三木の祭り屋台大集合」を開催します。ここでは、地域に代々伝わるお祭りで奉納されている「祭り屋台」の魅力と文化を守り育てる皆さんを紹介します。

問 (市)企画政策課 企画政策係

本号紹介の秋祭りスケジュール

大宮八幡宮(本町2丁目)
 10月12日(出)(宵宮)
 午後4時45分頃～宮入
 午後7時15分頃～宮出
 10月13日(日)(本宮)
 午後4時頃～宮入
 午後6時55分頃～宮出

明石町※ (大宮八幡宮)

明石町屋台は、幕末安政年間の作と伝えられている歴史ある屋台です。3段の雲板、井筒など、独特な構造を持っています。

狭間と鳴り太鼓は幕末以来使い続けているものです。

これまでに本体の改修や装飾品の新調を重ね、令和になった今でも大切に使っている屋台です。

※大宮八幡宮秋祭りの大当番町



【大当番町代表コメント】

播州三大祭りの一つとされる大宮八幡宮の秋祭りは、毎年スポーツの日直前の土・日曜に執り行われます。宮入りでは、各地域を巡行した屋台が85段の石段を豪快に上る「屋台の石段登り」が行われます。境内にそった屋台は太鼓の音を響かせ、大迫力の練り合わせを披露します。その光景はまさに圧巻です。

鏡水町 区長 神出勝吉さん



屋台各部の名称

ふとんやね
布団屋根

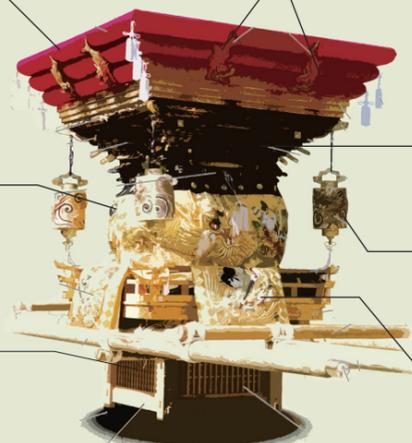
赤い布団の3段、反り屋根などの屋根がある

みずひきまく
水引幕

四本柱の周りに巻く細長い幕

ながどうだいこ
長胴太鼓

通称「鳴り太鼓」。乗り子が叩く合図で屋台が動く



ふとんじ
布団締め

布団屋根の四方に取り付けられた装飾。反り屋根屋台の場合は梵天となる

さま
狭間彫刻

屋台の四方を飾る彫刻

昼提灯

絵柄や文字の刺繍の入った飾り提灯

こうらんげ
高欄掛

豪華に装飾された四角の刺繍飾り

大村 (大宮八幡宮・彌御門神社)

平成10年に大改修。布団締めは黒帯に昇竜。飾り金具は兎と八咫鳥。狭間彫刻は明治25年に名彫刻師「柳源五郎正則」が彫り上げた天岩戸、屋島合戦、節分豆打ち、加藤清正征韓の見事な図柄。水引幕は八岐の大蛇、振動で目が動くのが特徴。昼提灯は昼夜ともに若中の文字を伝承しています。



大村祭り屋台大集合担当 荻野良平さん

榮町 (大宮八幡宮)

平成14年に大改修が施されました。水引幕は川村刺繍製「海女の玉取り」、高欄掛は梶内製「退治物」4点。昼提灯は「阿吽の龍」、布団締めは「龍・鳳凰」の図柄。狭間彫刻は岸和田の新生山本仲伸が製作した源平合戦物。雲板は姫路の中山龍雲の「春夏秋冬」の図柄。鳴り太鼓は太鼓正製作の鏡面2尺4寸5分を使用しています。



榮町区長 二杉智幸さん

全末廣 (大宮八幡宮)

先代屋台で大宮八幡宮に奉納を始めてから今年で95年。平成14年に新調した全長10m、全幅3.4m、高さ4mの総檜造りの屋台には、越中井波の彫刻師 富山勲氏が手掛けた「三木城の合戦絵巻」が狭間の4面に組み込まれ、鳴り太鼓は播州最大級の鏡面3尺を使用しています。

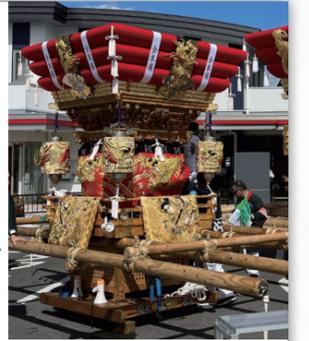


全末廣青年会の皆さん

全末廣子供 (大宮八幡宮)

今年で20周年を迎える子ども屋台は、昭和4年から80年以上に渡り継承されてきた旧大屋台を基本として製作しました。全長7m、全幅2.8m、高さ3mで、鳴り太鼓は鏡面2尺2寸の他では類を見ない大きさを使用しています。

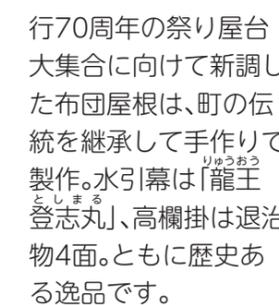
末広在住の約240名の子どもたちにとって誇りの屋台です。



全末廣子供屋台係の皆さん

城山 (大宮八幡宮)

昭和50年に下町から布団屋根、水引幕などを譲り受け、残りは手作りで仕上げた屋台。平成7年を最後に大宮八幡宮への宮入は休止中。市制施行70周年の祭り屋台大集合に向けて新調した布団屋根は、町の伝統を継承して手作りで製作。水引幕は「龍王登志丸」、高欄掛は退治物4面。ともに歴史ある逸品です。



城山町公民会の皆さん
(中央は今年度猿田彦神役の矢島幸雄さん)